

図書館教育のサポート

一昨日の授業研究会お疲れ様でした。授業提供の藤原先生、4学年は歯ッカソンの佳境の中でのご提案どうもありがとうございました。11月に向け、本年度は少しでも早くサポートをする必要のある中でのダブル取組に感謝します

授業後の協議、指導者の岩崎先生の話から、大会に向けてこれからやっていかなければならないことが見えてきましたので、確認しておきたいと思います。

○参加者は、1時間の当日の授業だけを見に来るのではない。期待しているのは、効果が期待できる継続的な取組の状況であり、どのような取組が成果を表せるのか、であること。

○そのためには、同学年で取組のテーマ（私たちの学年では、図書館のこのような活用の仕方が有効であると考え、1年間を通してこう取り組む）を決め、年間を通して、継続して研究し、それを11月に発表する。

○そのためには、今一度、学年の取組テーマを話し合い、共通理解する必要がある。もちろん重複や系統性もあるので、その調整は研修主任の役割。

○11月までに、全校授業がもうないのは本当にいいのだろうか。自主的な取組に期待したい。

○11月授業提供の学年は、指導者の岩崎先生と計画段階から連絡を入れ、一緒に進めるようにしてほしい。主任の先生方、よろしくお願いします。

○夏休み始めの研修時間に、学年の取組をまとめる必要がある。そのためには、4年生以外の学年の1学期中の実践が必要。昨年度の当該学年の実践も把握したい。

※図書館周辺環境整備も必要です。地域寄付を活用し、環境改善を予定しています。テーマは、「思わず立ち寄りたくなる木の温もり漂う楽しく明るい図書館」です。

学校運営協議会の3部会熟議

やまぐち型地域連携教育を進めるためには、学校運営協議会と学校組織の一体化が求められており、昨日の会で、本校もようやく徳知体3部会の協議を行うことができました。



協議は、本校3プロジェクトのリーダーである、泉、秋山、宮野先生の進行で行いました。この会を迎えるまでに、各プロジェクトで学校の課題を家庭や地域と連携して進めて行きたい内容を話し合っていたので、それを元に協議をしていきました。

各ブロックともに、学校側からの提案に、保護者も地域の方々も多様な意見を出していただき、まさに「熟議」にふさわしいよい協議でした。特に、地域の方々の、学校を支援していきたいという思いは各部会ともに大変強く感じられました。

同時に、それに応えるためには、まず、私たち学校側（職員）での共通理解と具体的な「依頼事項」を明確に示す必要があることも分かりました。今、教務を中心に作成している「地域連携カリキュラム」をより詳細にしていけばよいと思います。

具体的な学校課題の解決に向け、保護者、地域、学校3者が協議をしていくことこそがコミスクの本懐です。

これを可能とするには、第一に教職員の参加・参画です。今回、参加いただいた先生方大変ありがとうございました。特に、各プロジェクトのリーダーの先生、熟議の充実には皆さん方のおかげです。本当にありがとうございました。